



やのまいか

例会日：毎週火曜日 12：30 例会場：豊川商工会議所

会長：山本章吾 幹事：金田樫宏 SAA：山田久就 会報委員長：笠原盛泰

事務局：豊川市豊川町辺通 4-4 豊川商工会議所会館内 0533-86-2535 Fax0533-86-8889

ホームページ <http://toyokawahoi.tank.jp> Email hoirc@sala.or.jp

本年度 11 回 通算第 990 回 平成 18 年 9 月 26 日 (火) 晴

ゲスト 地区ガバナー 斎藤直美さん (豊田 RC) 地区幹事 藤井伸三さん (豊田 RC)
 ビジター (なし)
 出席報告 高木修委員長

会員総数	計算会員数	本日の出席者数	本日の出席率	9/5 修正出席率
55 名	48 名	35 名	66.7%	91.6%

司会進行 山田久就 SAA

ガバナー公式訪問合同例会

歓迎のことは



山本章吾会長

ホストクラブを代表して歓迎の挨拶をさせていただきます。斎藤地区ガバナー並びに藤井地区幹事に於かれましては、大変お忙しい中をお越し頂きまして誠にありがとうございます。心より歓迎を申し上げます。例会に先立ちまして、両クラブ合同の会長幹事懇談会を開催させて頂きました。大変和やかに時間一杯まで行いました。クラブの現在の状況を報告させて頂き、斎藤ガバナーより適切なアドバイスを頂きまして、大変有意義な懇談会となりました。

ロータリーは、昨年 100 周年を迎え、第 2 世紀を歩みだしました。いろいろな問題を抱えています。ひとつには、ここ数年で多くの会員が退会されています。そんな現状を踏まえて今後のクラブの充実、発展にどのように結びつけるかを大変苦慮しているところです。

今日のガバナーのお話、これからのクラブ運営をどのようにしたら良いか参考にさせて頂きたいと思います。

本日、9 月 26 日は、新しい日本の総理大臣が誕生をする予定の日です。安倍新内閣が今夜中にも発足するのではないかと思います。このように意義ある日に斎藤ガバナーをお迎えして公式訪問例会ができて、私も会員の心に残る例会になるのではないかと考えております。本日はありがとうございました。

ガバナーの講話 斎藤直美ガバナー

こんにちは。豊田ロータリークラブの斎藤でございます。今年はガバナーという大役を仰せつかっております。今日で 23 回目の公式訪問になり



ます。今年の訪問先は44回を予定しておりますので、ちょうど半分になりました。クラブ数でいきますと、今日を入れて40クラブ、地区内81クラブですので、ちょうど半分で峠に居ることになります。半分ですが、くたびれてきました。公式訪問は、会長さん幹事さんとの懇談会で色々と指導をし、例会で講話をする。その間に地区の様々な委員会がありまして出席をする。ということで殆ど動きどろしですが、とても楽しいです。発見があります。今までに思いもかけなかったロータリー情報を知ることができます。ひとつ紹介しますと、ロータリー財団におけるポールハリスフェローをご存知だと思います。自分の持っているポイントを人様あげることをご存じないと思います。「認証ポイントによるポールハリスフェロー」といい、私が3000ポイントを持っていたとすると、そのうちの1000ポイントを家内に渡し、娘にも1000ポイント渡し、友達に500ポイント渡します。私から2500ポイントを人にあげます。友達は、500ドル自分で寄付をしますと、ポールハリスフェローが3名誕生します。ロータリアンでないのに。そのような形のポールハリスフェローというのがあるのです。蒲郡の商工会議所会頭の小澤秀雄さんは、数年前のR I会長のデブリンさんからポイントをもらいました。ロータリー財団の管理委員長を前年度までお勤め頂きました。デブリンさんから小澤さんにポイントを渡してくれと連絡が参りまして、本年度の地区大会でポールハリスフェローのメタル授与が行われます。皆さんこれは初耳だと思います。裏話を申し上げますと、これを



地区の諮問委員会へ認証ポイントによるポールハリスフェローのメタル授与を議事として上程しまし

た。諮問委員会でもなにもご存知なかったです。皆様方も、奥様やお子様をポールハリスフェローにすることができるのです。こういう情報がガバナーの余力として入ってきます。非常に良いことだと思っております。例えば、今年は地区としてロータリー情報に大変力を入れております。地区の組織として、研修リ

ーダーは岡部パストガバナーです。今年から研修委員会を作りまして、岡部さんを支える委員会を設置しました。そして各クラブをあげてロータリー情報の勉強会をして下さいとお願いしています。ここ数年は、ポリオに寄付を、大阪の国際大会に寄付を、万博に寄付をということが沢山ありました。そちらに気が取られておりました、ロータリー情報という肝心なところが欠落してきていますので、今年度より力を入れていこうと思っております。もうひとつは、広報です。私たちより10歳以上上の先輩方に言われたことは、「ロータリーというものは、自分のやったことをひけらかすものじゃあないよ。人様に言うものではない」と言われて参りました。でも私は、民主主義が取入れられた昭和20年が1年生だと思っておりますが、自分たちがやったことを人様にご理解頂けないことは悔しくてしょうがない、新聞の紙面を賑わすのはライオンズだけだということをご存知だと思います。ロータリーは広報下手だと思います。ですから、この年度あたりから一生懸命いろいろとやったことを映像化したい、活字にしたいと思いがガバナーとしてありますので、今年は広報にも力を入れていくということです。公式訪問で各クラブを回りながら、活動を是非とも地方紙でいいので活字にして下さい。できれば6時のニュースで放映されるようにできないかとお伝えをしております。各クラブのクラブ計画書を見ますと会長幹事の意気込みがわかってきます。委員長さんの新しいことへの取組みが伝わってきます。時々その新しい企画はいつから始めるのか質問しますと、今年からとか去年からと返事を頂きます。そうするとクラブがその事業に対して燃え上がっているのを感じます。ですから、ストレスを感じますが非常に楽しい公式訪問を地区幹事とともに参っております。

私の役割は、R I会長のビル・ボイドさんのテーマを皆さん伝えてご協力頂くことあります。今年のテーマは「率先しよう」です。これはアメリカでのガバナーの研修会の時に発表されまして、研修リーダーから日本のガバナー34名に対してR Iテーマについての感想を聞かれました。フリートークの中で今年は簡単で良かったという意見が出ました。そうしますと、研修リーダーの方からR I会長のテーマというのは、毎年、前年度のR I会長テーマを引き継ぐ形で考えられていると

のことでした。ご存知のようにR Iのプログラムは、どんどん拡大しております。どこでキリをつけるのかというぐらいになっています。昨年のテーマは「超我の奉仕」でした。1911年のロータリーが理論闘争に明け暮れた、シカゴに公衆便所を作ったほうが良いのか、身体障害者のための学校をつくった方が良いのかという理論闘争をしてクラブが二つに分かれたという記録があるそうで、その頃の原点に戻りなさいというのが去年のテーマです。だとするとそれを考えてビル・ボルド会長は「率先しよう」をテーマにしたことをフリートークしました。ビル・ボルド会長は、4つの強調事項をあげました。水保全、飢餓と保健、識字率の向上、ロータリー家族です。これを我々がどのように皆さんにアプローチをするかを話し合いました。良く理解せずにかつに第1歩を踏み出さない方が良くであろうというのが、我々がバナーの結論でした。逆に理解しているクラブは第1歩を踏み出しても良いということです。クラブの歴史とか個人の人生観に関わりを持ちながらテーマを消化していくことになると思います。そのテーマに踏み出す前に我々がやることは、クラブ奉仕というものは何かということであろうと思います。ロータリーが国際交流や社会奉仕ばかりやっても良くないのです。そうしますと、ロータリーは職業奉仕だという一番初めのテーマにぶち当たるのです。私は最近、ロータリーは職業奉仕ではないと生意気に主張しております。それは豊田という街は、ものづくりということにとっても賑わっている地区です。ご存知のようにトヨタ自動車があればだけの会社に成長するのに二次三次という下請けが繁栄しております。その会社の二代



目の方々もロータリーに入会してきます。40代の経営者が入ってきます。そして職業奉仕をしますと、職業奉仕がロータリーの原点なのか？そんなこと当たり前でしょう。倫理観を持って物づくりをするのは当たり前なことだと彼らは言います。我々が学んできた職業奉仕はなんだったのか、彼らが言う当たりの

ことをポールハリスは、物づくりや物品販売が乱れていたから、商取引の倫理観を法則として、特にシェルトンが言いました。シェルトンは経済学博士です。なんでロータリアンの企業だけ繁栄しているのか、ロータリーは奉仕活動をしている。インチキをしない、倫理観を貫く、お客さんのために物をつくる、倫理観が一貫してあるので商売が大きくなっていくのがロータリアンの企業でした。という



ことがあの時代にあったわけです。しかし100年たった今は、当たり前のこととして若い世代に受け継がれているのです。教会中心の社会と仏教中心の我々の社会とでは、少しずれている感覚があります。あの時代、ロータリーの倫理観は、日本人の一番大切にしている道徳観と一緒だったので大変歓迎されたのだと思います。では、最近入会される若手をロータリアンに育てようとする、彼らにはとても苦痛なことが起こります。それは週一回、決まった時間に決まった場所に出掛けていくということです。これは若い世代には苦痛のようです。それがクラブ奉仕をなかなか理解してもらえないことだと思います。クラブ奉仕とは例会に出ること、なんでそんなに大事なんだと言う意見もあります。毎週例会に出席をして、自分の情報を皆さんに言う、皆さんの情報を自分がもらう。それを毎週毎週やっていくことが、経営者として地区のリーダーとして大きくなっていくのだと酒を飲みながら先輩に教わりました。私の豊田RCでは、60歳を過ぎたら嫌われても40代の世代に物を言おうと申し合わせをして、なるべく言うようにしています。その中でどれだけ大きくなるかはわかりません。ロータリアンとしてどんな活動をしていくのかもわかりません。11月の地区大会の第1日目に大村北RCの佐古亮尊さんに講師として来て頂きます。この佐古さんが言われるには「クラブ奉仕を徹底してやりなさい。クラブの中で仲良くしていけば何かが起こると言われます。ご縁があれば次のテーマに向かっての一步が出ま

す」と言われます。何かの出会いやカルチャーショックがあれば、次の問題に手が出るでしょうということだと思います。そこにR I テーマの「率先しよう」が出てくるのだと思います。クラブ奉仕を一生懸命やっていると、ご縁があって社会奉仕や国際奉仕が出てくるのです。だからクラブ奉仕がきっちりできないうちは、次の奉仕はやってはいけないということだと思います。豊橋の森パストガバナーが、「ロータリーは人生の余白である」と言われました。ロータリアンになった我々は人生の中にどう落書きをするかだと思います。何を書き込むかだと思います。ロータリアンとしてのテーマだと思います。クラブ奉仕をしっかりとあかつきに、初めて何かを書けるんだと思います。そのようなロータリアンに成長するのは、とても難しいと思います。私は医者でありながら、ポリオのワクチンを一滴も投与したことがありません。インドに行っていません。ラオスに行って学校を建てていません。ロータリアンとしての負い目があります。現在ガバナーとしての肩書きがあるので、いろいろなプロジェクトがあるので、そのなかの2つぐらいには参加したいと思っています。それが余白に落書きをする行為なのかと思っております。ご静聴ありがとうございました。

御礼のことば 中村仁蒲郡RC会長



今日は、豊川宝飯RCの皆様と蒲郡RCの会員と一緒に、斉藤ガバナーと藤井地区幹事をお迎えすることができましたことを大変うれしく思っております。斉藤ガバナーからは、RIについて、地区方針について、ロータリーについて教えて頂きました。内容もさることながら、斉藤ガバナーの人柄を知ることが出来まして大変良かったと思っております。本日の公式訪問が折り返し地点とお伺いしました。これからも健康に気をつけて頂きまして、ガバナーの大役は大変だと思いますが、頑張ってくださいと思います。本日はありがとうございました。

ニコニコボックス

その他

斎藤直美さん 公式訪問よろしく
藤井伸三さん ”
蒲郡RC お世話になります

次回例会のお知らせ

と き 10月11日(水)18:00~
と ころ 東海カントリークラブ
内 容 豊川RCとの合同例会

会報担当者：小野喜明会員

このウィークリーは再生紙を使用しています。